

「自然づくり・環境づくり・人づくり」サマーチャレンジ 2017

川ある～き調査隊 実績報告書

期日 平成 29 年 8 月 5 日（土）午前 8 時 30 分～

場所 日川（ぶどう橋周辺）

気温 27℃

水温 17℃

隊長 芹沢 正吾 副市長

講師 長田 義己 氏（山梨動物生態研究会）

北村 眞一 氏（山梨大学教授）

参加者 児童 40 名 保護者 25 名 スタッフ 45 名 計 110 名



1. 水質調査

1-1 調査方法

パックテスト（簡易水質調査キット）による調査方法を用いる。

最も簡単な水質測定器であり、多くのパックテストの反応原理は JIS K0102 などの各種公定法内の吸光光度法を応用している。

1-2 用語説明

化学的酸素消費量（COD）

海水や河川の有機汚濁物質等による汚れの度合いを表す数値で、水中に有機物などの物質がどれくらい含まれるかを、過マンガン酸カリウムなど酸化剤の消費量を酸素の量に換算して示される。COD の数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いということを示す。魚が生息できる河川の水の COD は 5 mg/l 以下とされる。

COD 値 (mg/l)	0	1 以下	2～5	5～10	10 以上
汚染の目安	きれいな水	きれいな溪流	汚染がある	汚染が多い	汚れた水

1-3 調査結果

パックテストの結果、日川は良好な水質である。

しかし、前日の雨の影響で濁りがあったため透明度は低かった。



2. 生物調査

2-1 調査方法

ガサガサによる捕獲を行う。ガサガサとは、生物が潜んでいそうな場所の下流側にタモ

網を川岸に垂直になるように置き、上流側から足で川の中をガサガサし、魚をタモ網に追い込む方法のことである。

2-2 調査結果

15 種類 410 匹の生物を捕獲することができた（表 1）。山の生き物や川の生き物が混在している環境であり、多様な生物が棲むきれいな水である。



表 1. 日川で捕獲した生物

名前	数 (匹)	写真	説明
ヒゲナガカワトビケラ	29		流れの速い早瀬の小石の隙間に固着巣を作り、捕獲網をはって生活する。
カジカ	50		きれいな川にしか棲めない。ふるさとの溪流を代表する魚。種類によっては絶滅危惧種あり。
アブラハヤ	194		地区によって名前が違う。触った時にヌルヌルするのでアブラハヤと呼ばれる。岩石や柳の下に隠れ場を持つ。
コオニヤンマ ヤゴ	17		天敵から身を守るために落ち葉に扮した見た目をしている。
コヤマトンボ ヤゴ	37		楕円型で平べったく脚が長い。丘陵地や低山地の河川で見られる。
ヘビトンボ 幼虫	3		川底が良い環境にしかいない。流れの速い瀬の中央部を好む。
ナベブタムシ	50		河川清流域の川底の細礫の中に潜んでいる。溶存酸素量の多い平瀬に多く生息する。
サナエトンボ ヤゴ	3		扁平で紡錘形に近い。あまり活発に泳ぐものではなく川底の泥や砂に潜む。
サワガニ	8		河川の上流域に生息し、砂礫や小石の多い場所を好む。オスとメスは腹節によって判別できる。

カワニナ	4		主に山間部の川や比較的冷たい水が安定して流れる細流に生息し、多くは礫に付着している。
オタマジャクシ	7		孵化したその年に変態するものと水底の落ち葉などの間に越冬し、翌年に変態するものがある。体に縦の細い暗紋がある。
カワヨシノボリ	1		日本の固有種。水のきれいな流れのある淵から平瀬にかけて木の根や水草の陰、川底の石周りに多い。
ゲンジボタル 幼虫	1		石が重なったような場所で、自身が流されない程度に緩慢な流れの場所に生息する。餌となるカワニナが生息していることが不可欠。
アメンボ	3		捕まえると匂いに似た匂いを出すことが名前の由来。主に平地の池や川、沼などの静水域に生息する。
カワトンボ ヤゴ	3		平地から山地にかけての清流に生息する。流れの穏やかな川岸の抽水植物や沈水植物にしがみついたり、淵や淀みなどの物陰に潜む。

3. まとめ

日川は多様な生物が生息するきれいな川であり、甲州市の大切な財産であることが再認識できた。今回の調査ではゲンジボタルの幼虫を捕獲することができ、新たな発見となった。今回は前日の雨の影響で少し濁りがあったが、怪我や事故もなく終えることができた。普段はあまりできない川遊びを体験した子どもたちには笑顔が溢れ、また、川の楽しさとともに危険性も学びながら、将来に残すべき資源を感じてくれた。

